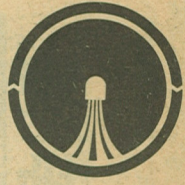


創刊号

ほんきょうろ

本郷とは人類の本当の故郷という  
意味です。従って、本郷路とは地  
上天国実現の為の道路なのです。



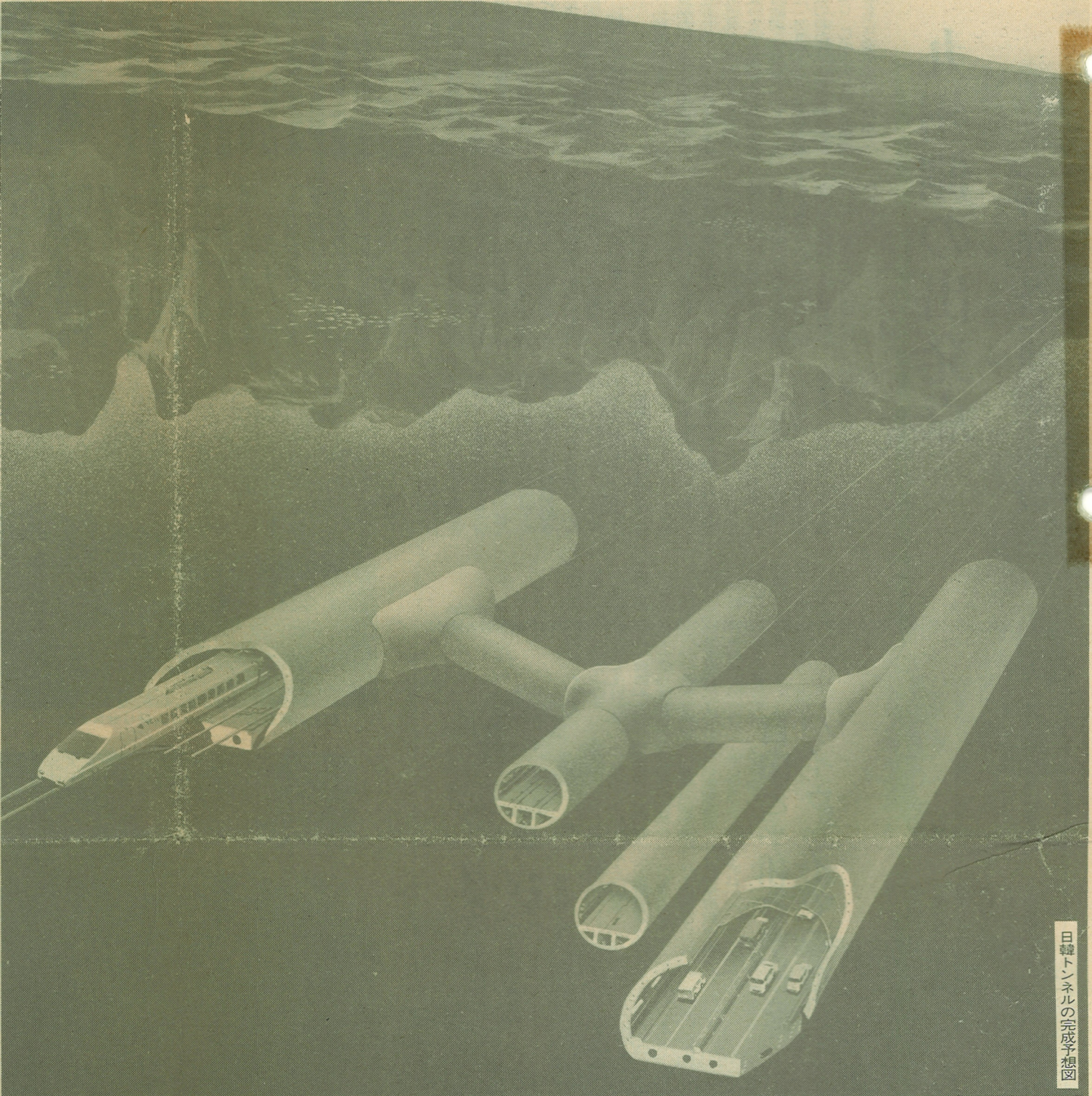
本郷路  
INTERNATIONAL HIGHWAY

1984年4月1日発行

定価500円(送料込み)

発行所 国際ハイウェイ建設事業団  
東京都渋谷区道玄坂2-10-12 新大宗ビル  
3号館4F TEL 03(496)2893

人類の夢、国際  
ウエイ  
GO!



日韓トンネルの完成予想図

国際ハイウェイ構想は、一  
九八一年十一月十日、ソウル  
特別市で開催された「第10回  
科学の統一に関する国際会議  
」の場で、文鮮明師によつて  
発表されました。これは、  
その時の講演の抜粋です。

私達が住んでいる地球は、  
陸地と海洋に分かれていま  
す。そして半島は地理学的に  
見た場合、大陸と海洋を連結  
する中心的位置にあります。  
従って、昔から半島はいつも  
文明形成に重要な位置を占め  
てきました。ギリシャやロー  
マの古代文明も、またスベ  
イデン、ポルトガルの文明も半島  
で生まれ、そこで栄えたので  
す。しかし今日、東洋文明と  
西洋文明を結合させた新しい  
世界的文明が出現しなくては  
なりません。  
世界的文明は、地球をひと  
回りしながら発達してしま  
した。すなわちエジプトの大  
陸文明から、ローマ・ギリシャ  
の半島文明、そして英国の島  
しょ文明、次にアメリカの大  
陸文明へと移動し、さらに西  
進して太平洋を越え、日本の



国際文化財団創設者

文鮮明師

今日、東洋文明と西洋文明を結合させた新し  
い世界的文明が出現しなくてはなりません。  
それは、中国から韓国を通り日本に至る「ア  
ジア大ハイウェイ」を建設し、ゆくゆくは、  
全世界に通じる「自由圏大ハイウェイ」を建  
設することです。

地上天国構想の提唱

島しょ文明、そして今や韓半  
島文明として集結しようとする  
アジアのびてきております。

ここ韓国に集結した文明は高  
次元のものであり、新しい世  
界を形成する上で中心的役割  
を果たすことになるでしょう。

島国である日本は、アジア  
で初めて西洋文明を定着させ  
ました。次は半島文明の時代  
です。韓半島こそ、東洋と西  
洋の両文明が結合しつつある  
場所なのです。歴史学者シュ  
ベンクラーが指摘したこと  
く、一年に春夏秋冬があるよ  
うに文明も興亡を繰り返して  
まいりました。今日、大西洋  
文明時代が過ぎ去り、太平洋  
文明の時代が始まろうとして  
おります。韓国を取り巻く状  
況を見ると、アメリカ、日本、  
中国、ソ連という四大強国の  
中央に位置しています。アメ  
リカは現在、ソ連の拡張主義  
に対抗するために多大な努力  
を傾注しています。そのソ連  
はヨーロッパではドイツを東  
西に分割し、その半分を占拠  
しております。またアジアで  
は韓半島を南北に分けて、北  
を支配圏においているので  
す。  
そして、この四方の勢力  
が対峙しているのはヨーロッ  
パではなく、おおむね韓半島  
を中心としたアジアなのであ  
ります。このためにアメリカ  
としては、ヨーロッパより大  
きい大陸であるアジアに  
関心を持たねばならない立場  
にあります。このような背景  
を見ても、韓国はすべての面  
において、東西南北の対立の  
運命を決定する根本的役割を  
果たす国であることが分  
かります。  
このような歴史的環境に位  
置した韓国が果たさなければ  
ならない課題は四つありま  
す。第一は超党派運動による  
宗教の統一、第二に唯物共産  
主義の克服による思想統一、  
第三に東西文化を融合した新  
しい生活様式による文化の統  
一、第四に新しい理念による  
経済の統一。そしてこの統一  
を可能ならしめるのは、絶対  
的価値を中心としたものであ  
ります。  
現実を見ると、共産勢力の  
侵略政策が世界的に展開して  
おり、そのままでは世界平和  
はもろろろ経済的統一も不可  
能です。もし韓国とアメリカ、  
ドイツ、日本、中国が一体と  
なるならば、ソ連の野望を阻  
止できるとともに、アジアの  
発展、第三世界への貢献も可  
能なうまうまあります。  
以上のような結論から、私  
は一つの提案をしたいと思  
います。  
それは、中国から韓国を通  
り日本に至る「アジア大ハイ  
ウェイ」を建設し、ゆくゆく  
は、全世界に通じる「自由圏  
大ハイウェイ」を建設するこ  
とです。これは中国大陸から  
韓半島を縦断し、トンネルで  
日本列島と連結して日本を縦  
断する一大国際ハイウェイ  
で、ここでは自由が保障され  
るのです。  
もしこれが建設されるな  
らアジア諸国はハイウェイ  
で連結され一本化するこ  
とができます。そうすれば、経  
済や文化の交流が頻繁とな  
り、文字とおりアジア共同体  
が形成されるのです。中国も  
これに賛成するでしょうし、  
日本はもちろんです。韓国もい  
までもなく賛成するでしょう。  
アメリカとドイツもまた、  
これに参加するようにな  
るでしょう。



# 夢が実現する

## 日韓トンネル 現地ルポ

「人類の理想」それは万民が飢餓や戦争から解放された、平和と幸福に満ちあふれた世界の実現。そのために生まれたのが、全世界を道でつなぐ「国際ハイウェイ構想」という壮大な計画である。その「第一歩」をしるべく、今「日韓トンネル」のための準備が着々と進んでいる。現場をレポートしてみた。

佐賀県の海岸沿いにある唐津駅からタクシーに乗って十分ほど走ると、「国際ハイウェイ建設事業団」の唐津事務所がある。すぐ横側には

針をたてるため第一定安丸を使ってデジタル・マルチチャンネルによる音波探査が行われた。

その結果、吉岐、九州間には溶岩が噴出して固まった貫入岩があることがわかった。

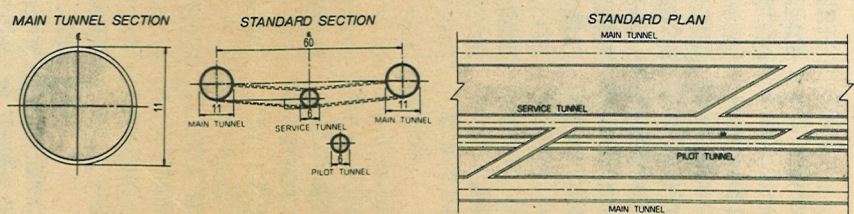
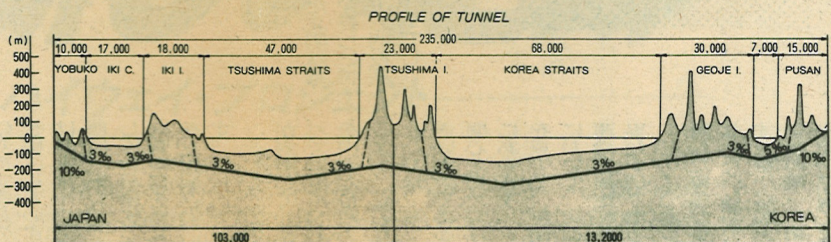
昨年十月には最新鋭の調査船「第三定安丸」が新たに加わり、現在二隻の調査船が海底の地質調査で大活躍している。第三定安丸には海底基盤下の音波探査ができるウエーバーが積まれ、海中で圧縮空気を発射してその振動を計測して海底下の地形、地質を知ることが出来る。その結果、昨年の音波探査で解明できなかった海底下五百、一メートルの地質が解明され始めた。



航空測量調査のための6人乗りセスナ機



日韓トンネルの予想ルート



### 二隻の調査船が活躍!

「地質調査を行ったり、調査船が置いてある場所は、ここから車で十分ほど行ったところの鎮西町名護屋です」と、同事務所の藤橋所長は説明してくれた。

昨年秋と昨年夏には、海底のおおよその地質の状態を知り、この広大な海の地質調査を進めるかの基本方針をたてた。

名護屋では、斜め掘りのボーリング調査も行われ、具体的な地質データが取得されている。これらの調査の結果、砂岩が中心の古代第三紀層と白亜紀層と分かった。地表の踏査、岩石試験、水文調査等が行われ、基礎となる地質図が作られた。

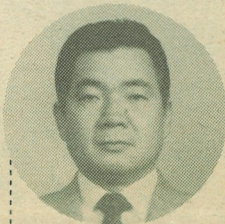
### 青函の4倍 長さは235キロ

これに加えて、加部島ではダイナマイトを使って弾性波探査が行われた。これはダイナマイトの爆発振動が地底の岩石を伝わる速度を計測し、地下に分布する基盤石の固さを知ることが出来る。

## 九州側の出発点

### 一昨年夏に事務所開設

一九八一年十一月十日、ソウル特別市で開催された第十回科学の統一に関する国際会議(ICSUS)において、こ



梶栗玄太郎氏  
国際ハイウェイ建設事業団 理事長  
(株)世界日報社社長

## 自由と平和と幸福を ハイウェイでつなぐ

勝手な国益の追求をやめさせると同時に人類愛という高い次元からグローバルな新しい価値観を確立し、全世界の

その一次案が東京、ソウル、北京を経てユーラシア大陸を横断してロンドンとモスクワに至る国際ハイウェイを建設しようという計画です。以上の構想に基づき、一九八二年四月、国際ハイウェイ建設事業団を設立し、一九八三年五月には、学識経験者による日韓トンネル研究会(会長は長谷川保雄)を組織し、研究と具体的調査に乗り出した次第であります。

国々を高速道路で一直線に貫通させ、科学技術を総動員して豊かな経済基盤の上に万民が等しく自由と平和と幸福を共に享受できる人類一家族一兄弟の世界を築かんとする地上天国の提唱であります。

の会議を主催して行われた国際文化財団創設者 文鮮明師によって国際ハイウェイの建設が提唱され、満場一致で決議されました。

国際ハイウェイ・プロジェクトは、反目と争奪一辺倒の

## 経過報告

### 一九八一年

十一月十日 文鮮明師、国際ハイウェイの建設を提唱  
(於韓国ソウル、第十回科学の統一)

### 一九八二年

二月八日 日韓トンネル研究プロジェクト総括委員会発足  
(委員長 松下正寿)  
四月一日 国際ハイウェイ建設事業団発足  
(理事長 梶栗玄太郎、事務局東京都渋谷区)  
六月二十日 日韓トンネル既存地形地質資料の発注  
(サンコーコンサルタンツ株式会社)  
六月三十日 日韓トンネル陸上部第一次地質踏査の発注  
(サンコーコンサルタンツ株式会社)



# 21世紀の

## 陸と海で地質調査

### 建設予定ルートは二本

「具体的な調査が進むにつれ、日韓トンネルはもはや夢の段階をはるかに越えて、現実味を帯びてきた。私はそれを実感している」と、説明にあたり、日韓トンネル建設部長は日焼けした顔をかがやかせながら、力強く語ってくれた。

日韓トンネル計画は、佐賀県東松浦郡呼子町から豊後、対馬、韓国・巨済島を経由して釜山まで、全長約二百三十五キロメートルに海底トンネルを掘るといふもの。トンネルの長さは、世界最長の青函トンネルの四倍近い長さで、

実現すればまさに史上空前のトンネルとなる。

#### 実現を願うアジアの声

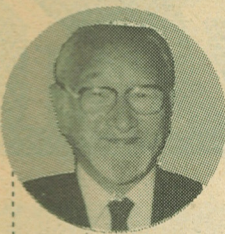
この提唱を受け、八二年四月に「国際ハイウェイ建設事業団」が設立された。同研究会の会長には佐々保雄氏、副会長には佐々保雄氏、理事には佐々保雄氏、幹事に佐々保雄氏、事務局に佐々保雄氏が就任した。佐々保雄氏は、建設予定地の佐賀県庁を訪れ、トンネル建設の意義、計画、活動報告を行った。県庁側は出来る限りの協力を約束してくれた。

調査船「第三定安丸」(160')



深層ボーリング調査

八三年七月には、福岡で日韓トンネル研究会の九州支部が設立、同支部長になった高田源清九州大学名誉教授は「われわれの子供や孫のためにも二十一世紀の夢としてバックアップしたい」と語った。日韓トンネル実現に向けて、問題も多いが、「青函トンネルの技術をもってすれば実現可能(佐々保雄氏)」「難問があること自体が問題ではない」と、その難問をいくつも減らすか、実現が可能になるのではないかと、松下正寿同研究会名誉会長、などの発言にも見られるように、着実な一歩の積み重ねが、やがてこの人類の夢を現実のものとしてくれるだろう。夕日に赤く染まった玄界灘の水平線の彼方から、日韓トンネルの実現を願うアジアの声が響いてくるようにした。



佐々保雄氏

日韓トンネル研究会会長  
北海道大学名誉教授

一昨年十二月の初め、日本山岳会の前会長・西堀栄三郎さんから「見たいものがある。日本でもこれに志して君一肌ぬいで見ないか」と誘われたのが、文鮮明師の国際ハイウェイ提唱のリーフレットであった。

見ると、九州から豊後、対馬を通って韓国に渡り、ソウル、ピョンヤンを経て北京に至るルートが描かれてあった。

聞けば、いっ先日ソウルで催されたICUS(科学の統一に関する国際会議)の集まりの折に提唱されたものだと言

### 青函の技術を生かし お互いがよき隣人に

手段として、世界を国際ハイウェイ網で結び、物心の自由化と一体化を図るものと言

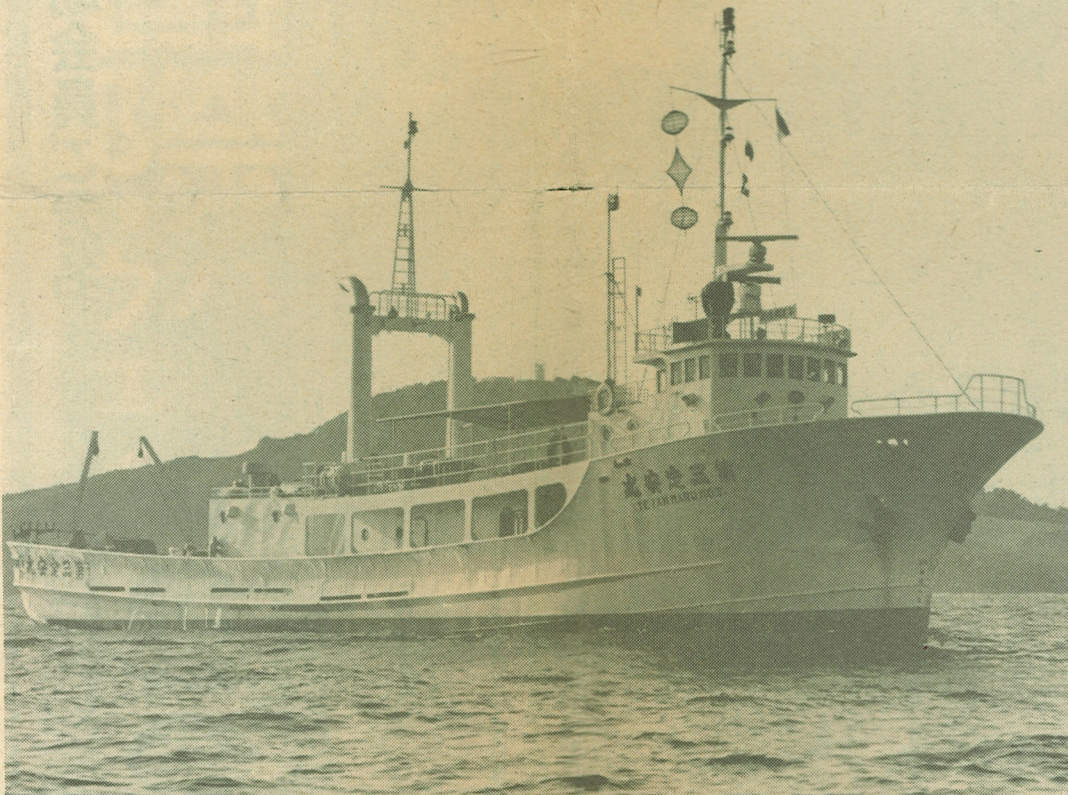
ものと感じた。

青函トンネルの立案者である国鉄の桑原弥生氏は昭和十年代、九州から朝鮮半島、北京、天山南路、パミール高原、テヘランを経て、イスタンブールでオリエントエクス

プレス線に結び、ドーバー海峡トンネルでロンドンに至る計画を発表した。そして昭和十六年から十七年にかけて、対馬までの物理探査が実施され、地質調査の試行も行われたが、戦争によって中止された。

戦後、大林組が「コリアン・ドライブウェイ」構想を発表、この壮大な計画に対する意気込みは消えていない。そして今回、思想家としての文鮮明師の提唱があり、その理念を技術が一つに融合すれば、実現も不可能ではない。

もつてこの前途は平穏ではないだろうが、日本には青函トンネルの実績がある。実現化の過程を通じ、日本の経済力、技術力が世界のために奉仕できるし、完工の暁にはお互いがよき隣人となり、それが二十一世紀を担うアジア共同体を築く第一歩となる



七月三十一日 既存地形地質資料の完成  
八月一日 佐賀県唐津事務所の仮設  
八月八日 第二次日韓トンネル基本構想案の発注  
(日韓トンネル研究プロジェクト総括委員会)  
十月一日 陸上部深層ボーリング調査 佐賀県呼子町、五〇〇メートルの発注  
(岸本ボーリング有限公司)  
十月四日 日韓トンネル海域部第一次音波探査(マルチチャンネル、七五五キロメートル)の発注  
(川崎地質株式会社)  
十月二十一日 調査船第一定安丸(五二〇メートル)の進水  
(EG&Gスパーカーシステム、デッカトリスポンド測位システム、精密音響測深機)  
十二月二十一日 八三年度地形地質調査報告会

#### 一九八三年

二月五日 佐賀県唐津事務所の落成  
三月一日 第二定安丸(二〇〇メートル)の購入(長崎県対馬)  
三月十日 第一次日韓トンネル基本構想案の完成  
三月二十二日 日韓トンネル海域部第一次音波探査の完了  
陸上部深層ボーリング調査(呼子町)の完了  
四月一日 日韓トンネル研究会(準)の東京事務所設置  
五月一日 長崎県対馬事務所の設置  
五月二十四日 日韓トンネル研究会発足(会長佐々保雄)  
六月一日 長崎県豊後事務所の仮設  
七月十五日 定安丸の係船場設置(佐賀県西町名護屋港)  
八月三日 日韓トンネル海域部第二次音波探査(シングルチャンネル、四五〇〇メートル)の発注  
(国際航業株式会社)  
九月八日 電気探査及び簡易弾性波探査(佐賀県西町)の発注  
(極東開発株式会社)  
九月二十二日 日韓トンネル陸上部地形図(一/五〇〇〇)の発注  
(国際航業株式会社)  
十月十一日 日韓トンネル海域部環境調査の発注  
(新日本気象海洋株式会社)  
十月二十日 調査船第三定安丸(一六〇メートル)の進水  
ウォーターガンシステム(二四〇〇馬力、八〇〇立方センチ)及びディスコシステム(ディジコン社、VAX一/七八〇)の導入  
十月二十四日 試験斜坑先進斜ボーリング調査(佐賀県西町、七〇〇メートル)の発注  
(極東開発株式会社)  
十二月七日 調査用航空機(セスナ式TU二〇六型、六人乗り)の購入(定置場、長崎空港)  
十二月五日 対馬南部地域重力探査(六〇〇測点)の発注  
(住鉱コンサルタンツ株式会社)

#### 一九八四年

一月二十五日 日韓トンネル研究会中間報告会参加  
(於東京・ホテルニューオータニ)  
三月二十五日 日韓トンネル海域部第三次音波探査(ウォーターガン方式、マルチチャンネル)の発注  
(極東開発株式会社)



# 大反響のハイウェイ構想

## 「世界平和の架け橋に」

## マスコミも注目

日韓トンネル・国際ハイウェイ構想が産声を上げてすでに三年。人類平和の手段として各界で注目を浴びているが、この構想にマスコミも注目、いままでも多く取り上げられてきた。それらの一部を紹介する。

一九八二年八月二十三日、世界日報に佐々保雄氏のインタビューが載る。氏はその中で「交通の整備で人の往来が盛んになり、付き合いが深くなることは、やはり相互理解をもたらすものでしょう。ね。年月はかかるでしょうが、ことに韓国に対しては、いわば隣人ですから、心を通じ、仲良くする必要がありますし、ね。……日本統治の三十六年の償いのためにも、これは私たちが手仕上げる構想を

### 夢か可能か「日韓トンネル」

持たたいものです」と決意の意を語っている。

そして、同紙も、「日本も国際化が叫ばれている今日、なんとか『島根根性』から脱却する必要がある。そのための第一案として『日韓トンネル』

建設構想』がある」と分析している。同年十二月三十一日には北海道新聞に同じく佐々氏のインタビュー記事。『ゆめゆめは韓国からアンア大陸を経てロンドンに至る『ユーラシア・ハイウェイ』の実現を夢見た巨大なプランだ』とリード文に書き、「世

界平和の架け橋に」と天きて見出しをつけている。北海道新聞は翌八三年一月一日にも佐々氏のインタビュー記事を載せ、「対馬海峡に弾む夢」と題して、日韓トンネル構想を詳しく紹介している。

八三年一月七日には東京新聞で「夢のかけ橋」のタイトルで紹介され「トンネルで日韓結ぶ」海底百三十キロ…民間団体が大構想練る」として佐々氏の話を載せている。

また、科学雑誌のオムニでも同年一月月に日韓海中トンネル案が紹介され、将来、高速大量輸送の手段に多目的海中トンネルが登場するだろうと予言している。

地元の新聞では、佐賀新聞が八三年三月二十四日付で「日韓結ぶ海底トンネル」雄大な構想浮上」と題して紹介、すでに唐津に調査事務所が建設されたことを告げている。

また、技術情報誌の「トリガー」八三年六月号には「橋」の新しい世界を創るマクロエンジニアリング」と題する論文を載せ、その中で日韓トンネル構想を取り上げた。

八三年五月二十四日発行した「国際ハイウェイプロジェクト・日韓トンネル研究会」



## 賛助会員ご芳名

- 一、個人 一口(金五〇,〇〇〇円也)  
二、法人 一口数にすぎず協力を依頼いたします。
- 川崎地質株式会社(東京都大田区) 金一〇〇,〇〇〇円也
  - 関賢一殿(愛知県豊橋市) 金一〇〇,〇〇〇円也
  - 馬場正人殿(佐賀県唐津市) 金一〇〇,〇〇〇円也
  - 大井為市殿(京都府天田郡) 金一〇〇,〇〇〇円也
  - セー株式会社(東京都千代田区) 金四五〇,〇〇〇円也
  - 長谷川昌之殿(大阪府大東市) 金三〇〇,〇〇〇円也
  - 東陽通商株式会社(東京都中央区) 金一〇〇,〇〇〇円也
  - 竹石時大殿(東京都渋谷区) 金一〇〇,〇〇〇円也
  - 金田 讓殿(大阪府大東市) 金一〇〇,〇〇〇円也
  - 金田岩雄殿(大阪府大東市) 金一〇〇,〇〇〇円也
  - 金二〇〇,〇〇〇円也
  - 坂内ツル衣殿(大阪府大東市) 金一〇〇,〇〇〇円也
  - 伊藤彦助殿(岩手県水沢市) 金一〇〇,〇〇〇円也
  - 衣川弥一殿(京都府天田郡) 金五〇,〇〇〇円也
  - 小西増政殿(京都府天田郡) 金五〇,〇〇〇円也
  - 水野崎子殿(愛知県西加茂郡) 金五〇,〇〇〇円也

## 「人類が幸福になるためには 国境をなくすことなんです」

日刊工業新聞九州山口版では、八三年八月三日付で「21世紀へ夢の構想」として紹介、建設費が三兆円を超すが「ロマンを秘めた巨大プロジェクト」といえる」と結んでいる。

また、朝日新聞の十月二十二日朝刊には「夢か可能か日韓トンネル」と題して、レポートを掲載、「……今後各方面に議論を呼ぶことは確かだ」とリード文で結んでいる。そして、佐々教授の「私はほんの夢、マユツバだ」と思っていたが、調査していき、だんだん可能性が出てきて、本気になったこの話も、すでに大まかな調査は終わったという」と、作業の進展ぶりを細かく報告している。

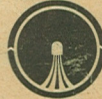
## 「ロマンを秘めた 巨大プロジェクト」

# 21世紀への新しい足跡

### 未来をつなぐ国際ハイウェイ・プロジェクト

- 【ご案内】
- ビデオ
    - 「国際ハイウェイ」〈23分〉〔日、英語〕……………6,000円(送料込)
    - 「国際ハイウェイ・ダイジェスト版」〈11分〉〔日、英、仏語〕……………4,000円(送料込)
    - 「道・国際ハイウェイ・プロジェクト」〈30分〉〔日、英語〕……………6,000円(送料込)
    - 「本郷路」〈11分〉〔日、英語〕……………4,000円(送料込)
  - 16ミリ
    - 「道・国際ハイウェイ・プロジェクト」〈30分〉〔日、英語〕……………60,000円(送料込)
  - パンフレット
    - 「国際ハイウェイ・プロジェクト」〈A4判、12頁、カラー〉……………300円(送料別)
    - 「国際ハイウェイ基本構想」〈A4判変型、40頁〉……………500円(送料別)
  - 機関紙
    - 「本郷路」〈タブロイド判4頁〉……………500円(送料込)
    - 「日韓トンネル時報」〈B5判、32頁〉……………500円(送料込)

●お申し込み、お問い合わせ



## INTERNATIONAL HIGHWAY

国際ハイウェイ建設事業団  
〒150 東京都渋谷区道玄坂2-10-12 新大宗ビル3号館437号室 ☎03(496)2893

